

港湾ロジスティクス分野の 官民投資ロードマップ素案（概要）

＜港湾荷役機械・サイバーポート（港湾物流DX）・次世代型倉庫＞

【港湾荷役機械】

方向性

港湾荷役機械

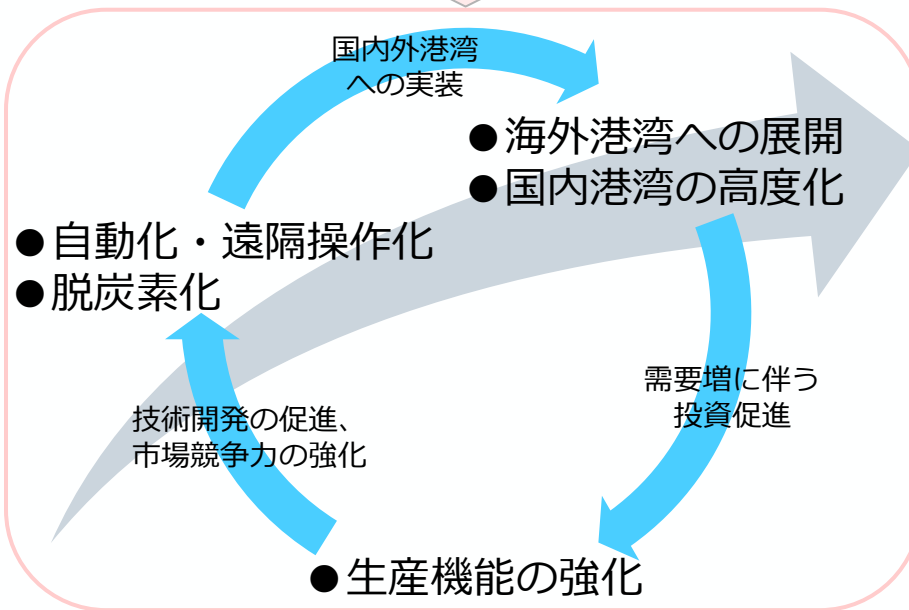


※写真はSTSクレーン（ガントリークレーン）

<制約要因・不確実性>

- ・生産能力の不足
- ・他国との競争環境の激化
- ・自動化・遠隔操作化等の遅れ
- ・自動化コンテナターミナルの国際標準化の動き

【我が国の強み】信頼性・耐震性等

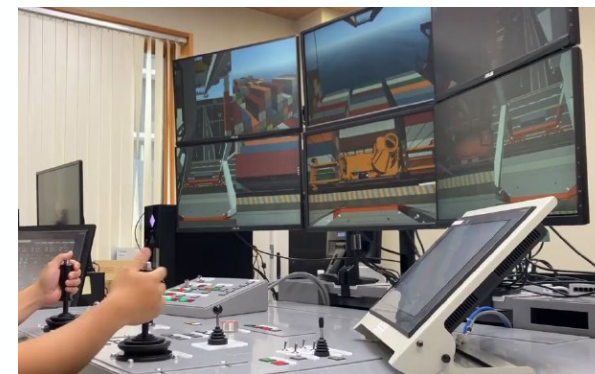


- ◎ 生産に必要な設備投資等への支援
- ◎ 自動化・遠隔操作化等
港湾荷役機械の導入支援
- ◎ 国際コンテナ戦略港湾の機能強化
- ◎ 国際標準化への対応、海外展開支援

<目標>

- ◎ 国内生産機能の強化により、国内市場を引き続き維持しつつ、米国やアジア太平洋地域を視野に国外市場の拡大（約200~300億円/年）を目指す。これにより2040年頃を目途に米国市場の3割程度のシェア獲得を狙う。
- ◎ 我が国や同盟国・同志国における経済安全保障リスクを低減する。
- ◎ 港湾の労働環境改善と生産性向上による強靱かつ持続的なサプライチェーンの維持を図る。

STSクレーン（ガントリークレーン）の遠隔操作イメージ



※写真は技術開発中のもの